

PCI ホールディングス株式会社 (3918)

2016年2月29日

PCI ホールディングス株式会社

会社説明会

代表取締役社長 天野豊美



会社説明会ご出席の皆様へ

本日は、ご多忙の中、当会社説明会へお運びいただき、誠にありがとうございます。

当社は、昨年8月に東京証券取引所マザーズ市場へ上場し2月4日に初めての第1四半期決算発表を行いました。上場以来、本日まで計画通りに順調な業績を収めることができましたことは、ひとえに皆様のご支援の賜物と感謝しております。

当社は、アナリスト・機関投資家向け説明会や個人投資家向け説明会を通じ、決算内容及び事業概要のご報告を行うことを基本方針としております。今後も、当社が営む事業について効果的にご理解を深めていただく一助となる優良な情報をご提供してまいります。

当社は、情報サービス事業を営む3つの事業会社を傘下に持つ純粋持株会社であり、グループとして、ソフトウェア開発事業をコアに事業展開をしております。特に、参入障壁が高いとされる自動車産業向け組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発に強みを持っていることが特徴です。

今期は引き続き、既存事業の拡大による売上拡大を図るとともに、既存事業から派生するI o T / I o Eソリューション分野への進出、また、自社ソフトウェア製品の開発による収益性の向上を企図してまいりたいと存じます。

引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

PCIホールディングス株式会社

代表取締役社長 天野豊彦

1. P C I グループとは . . .
 - ① これまでの「歩み」
 - ② 事業内容
2. P C I グループの強み
3. P C I グループの成長性
4. P C I グループの業績状況
5. P C I グループの株主還元

1. PCIグループとは・・・

①これまでの「歩み」



2016年9月期 PCIグループ – Motto –

『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』

1. PCIグループとは…①これまでの「歩み」 ～ 会社概要



企業理念

我々は、**お客様の満足**を通じて
全社員の幸せを追求し、
 そして**社会の発展**に貢献します。

行動方針

- 安定した事業成長を実現します
- ユーザに適したソリューションを提供します
- 応援して頂ける企業を目指します
- 積極的（P）に変化（C）を求め、革新（I）します
- 全てのステークホルダーに満足して頂ける企業を目指します

基本情報

(注) P : Positively C : Change I : Innovate

商号	PCIホールディングス株式会社 (PCI Holdings, Inc.)	資本金	6億5,072万円 (2015年9月現在)
所在地	〒136-0076 東京都江東区南砂2-1-12	連結売上高	78億5,304万円 (2015年9月期)
代表者	代表取締役社長 天野豊美	連結経常利益	5億4,485万円 (2015年9月期)
設立	2005年4月	連結子会社	PCIソリューションズ株式会社 PCIアイオス株式会社 Inspiration株式会社
従業員数 (連結)	856名 (2015年9月末現在)		

PCIホールディングス株式会社が グループ事業会社を経営管理することにより事業成長を加速させます

PCIホールディングス(株)

主な機能：グループ経営管理

(純粋持株会社)

グループ戦略の立案と実行

合従連合(注)におけるグループ間のシナジー効果創出

コーポレートアクション計画・推進

グループ全体の内部統制責任・内部監査

コーポレート・ガバナンス

財務・経理の統合、資金調達集中管理

(注)：同一の目的達成のために二つ以上のものが一つに組織化することを意味する造語。



PCIグループ

PCIソリューションズ(株)

代表者：天野豊美
売上高：7,056百万円
資本金：360百万円
従業員：785名

PCIアイオス(株)

代表者：関谷恵美
売上高：610百万円
資本金：45百万円
従業員：47名

Inspiration(株)

代表者：岩橋正治
売上高：207百万円
資本金：30百万円
従業員：11名

(注) 2015年9月現在

業務執行に専念

経営計画へのコミットメント

内部統制責任

コンプライアンス責任

個別業務への集中

1. P C Iグループとは・・・①これまでの「歩み」 ～ 会社設立の想い



- ・ 日本N C R(株)役員退任後、起業を決意！（平成16年：I Tサービス関連事業会社設立）
- ・ 日本N C R(株)役員時代の人脈/チャネルにより、取引先企業の経営幹部層からは、「仕事を手伝ってくれ」「仕事を出すよ」と言っていたが、大変感謝！
 - ・・・だが、取引先企業の現場担当者からは「取引実績がない」「企業の信用力がない」等の理由で思うように取引が開始できない事態に直面...

？なぜ優秀なエンジニアを抱えるベンチャー企業が大手企業と直接取引ができないのか
？これでは、日本ではI Tベンチャー企業が育たないのではないか
？他にも真に実力がある会社で、適正な評価がなされていない会社があるのではないか

- ⇒ 同じ思いを持つ会社と同じ方向を向いて、上記のような業界構造に風穴をあけようではないか！と決意。
 - ⇒ ひいてはそれが、[I Tサービス業界の活性化] [I T産業のコストダウン] につながり日本経済の発展へ寄与するのではないか
- ・ これらの想いをもって、設立後は、I Tサービス関連事業を営み、且つ、同じ価値観を共有できる友好的な事業会社との株式交換等を経て、純粹持株会社としてグループ会社の運営を開始
 - ・ 『Potential up of Venture』（造語：ベンチャー企業の潜在能力を最大限に引き出す）を旗印としてホールディングス形態のビジネスモデルを展開

1. PCIグループとは…①これまでの「歩み」 ～ 上場について

<上場を成し遂げた二つの想い>

日本のITサービス業界における**従来の構造に風穴を空けたい**という想い

日本NCR(株) (東証1部) の役員時に経験した上場廃止から、**もう一度上場したい**という想い

<上場までの道程>

最初に上場を考えたのは**リーマン・ショックの前**。上場準備を行うも市場環境から延期を決断

次に上場の機会を考えたのが、**東日本大震災の前**。この時は経常損失を計上し、再度延期を決断

それでも何とか立ち直り、諦めることなく・・・

2015年8月に東京証券取引所マザーズ市場へ上場

ようやく今後の事業展開に向けて、『スタートライン

に立つことができた』と実感



1. PCIグループとは・・・

②事業内容



2016年9月期 PCIグループ – Motto –

『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』

何をしている会社？

- ⇒ ソフトウェア開発を主力とした情報サービス事業
(お客様の要求に基づく受託ソフトウェア開発事業)

お客様は？

- ⇒ 主に B to B / 取引先の多くは上場企業 (関連会社含む)
(売上上位20社の内、16社)

業界での地位は？

- ⇒ SI・ソフトウェア開発 業種
時価総額順位：57 / 158社中 (東洋経済社：会社四季報2016年1集)

開発したソフトウェアはどこで使われているの？

- ⇒ 自動車、建機重機、モバイル端末、デジカメ、専用機器 等
- ⇒ 一般事業法人や金融機関の業務システム 等
- ⇒ 車載器、スマホ、太陽光発電モニタリングシステム 等 ※次頁参照

1. PCIグループとは・・・②事業内容 ～ 3つの事業分野

IoT/IoEソリューション事業



エンベデッドソリューション事業

ビジネスソリューション事業



1. PCIグループとは・・・②事業内容 ～ エンベデッドシステムとは

エンベデッドシステム（組み込みシステム）は、スマートフォンや自動車、家庭用電子機器・医療機器・産業用機器等、「制御」を必要とするあらゆる製品に内蔵されているコンピュータシステムです。身の回りの多様化する様々な製品に、当社グループの最先端技術が数多く活用されています。このエンベデッドシステム開発は当社が最も得意としている分野であり、当開発で培った通信制御技術・組み込み制御技術を応用したものが、IoT/IoEソリューション事業にも活かされています。

お客様（主に製造業者）

〇〇な機能を開発して欲しいなあ



要件定義・基本設計

発注

高い参入障壁
製造業者はリコールリスクを回避するため実績・信頼ある企業にのみ発注



開発事例

カーナビ



- タッチパネルで画面を切り替える機能

自動車



- アクセルを踏むとガソリン噴射量を制御する機能
- エンジン、エアコン等の制御機能
- センサーによる自動駐車機能

スマートフォン タブレット



- ディスプレイ表示の仕組み
- アプリケーションの基盤
- データ通信機能
- 電波を切替える機能 等々

デジタルカメラ



- 画面上のアイコン・ボタンメニュー等を実行する機能
- シャッターを押してフォーカスを合わせる機能
- 画像処理機能 等々

製品にチップセット組み込み

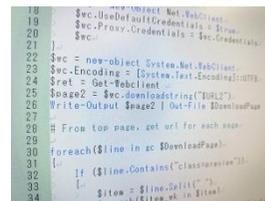
納品

システム開発

詳細設計

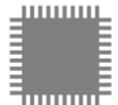
プログラミング

テスト



開発したプログラムをチップセットに格納

チップセットとは、ある機能を実現するための集積回路の組み合わせのこと。ソフトウェアの開発力でハードの複雑な機能を実現する。



多岐にわたる機能を必要とする機器のシステムは、最先端技術を駆使し、複数のハードウェア・ソフトウェアを組み合わせ開発しています。

※上記は一例になります。上記以外にも当社グループは幅広い技術でお客様のニーズにお応えしております。

1. PCIグループとは・・・②事業内容 ～ 事業の特徴



さらなる新規事業分野を開拓

当社グループの位置付け

エンベデッドソリューションの開発実績を背景にIoT関連開発を行う。
参入障壁は極めて高い。

製造会社との深いリレーションによる受注。顧客企業との共同開発も実施。
参入障壁は高い。

主に大手SIerから当社が得意とする分野の開発を受注。
参入障壁は高くない。



IoT / IoEソリューション

- 自動車業界およびエネルギー業界向けIoTソリューションを開発。

エンベデッドソリューション

- 自動車、重機・建機、車載器、情報家電、モバイル端末、ネットワーク機器などの組込みシステムにかかるソフトウェアを開発。

ビジネスソリューション

- 金融、製造業、交通、放送等の幅広い業種へのITシステムを構築。
- ビジネスアプリケーションの開発およびその付随業務を展開。

成長分野

収益基盤 (安定成長)

高い技術力の 源泉

PCIホールディングスの事業基盤

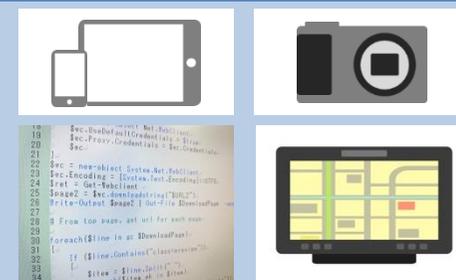
技術力

「ソフトウェア開発力」 × 「アプリケーション開発力」 × 「通信・組込み制御技術」

知的
資本

「豊富な開発実績」 × 「優良な顧客」 × 「モラルの高い社員」 ×

「プロジェクト
管理体制」



エンベデッドソリューション事業

～概ね堅調に推移～

- 当社が得意とする自動車産業向け組み込み系ソフトウェア開発を中心に、これまでの開発実績を背景とした引き合いが強い。
- 自動車産業向けでは、既存顧客からのカーナビゲーション開発・チップセット開発等の受注が計画通りに推移した。また車載系ECU（自動車の電子制御装置のこと）モデルベース開発といった新規案件も受注した。

ビジネスソリューション事業

～BP強化で事業規模が拡大～

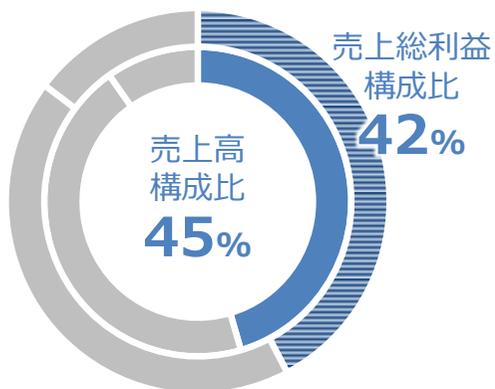
- BPとの更なるリレーション強化に向けた取り組みが奏功し事業規模が拡大。
- SIERを通じた金融機関向け案件の受注が拡大。
- 自社開発パッケージ製品では、大型案件検収が予定通り終了。
- POSシステム関連機器販売は、大口顧客の新規出店が継続寄与し堅調に推移した。

IoT / IoEソリューション事業

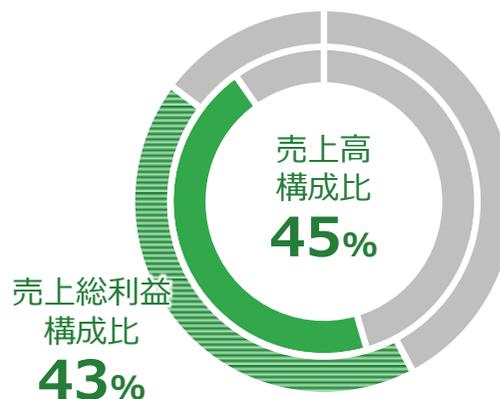
～自動車向けを中心に好調に推移～

- 平成28年3月からサービス開始予定のV-Lowマルチメディア放送に係るソフトウェア開発を推進。
- 自動車関連向け分野では、カーナビゲーション端末をゲートウェイとした各種センサーとインターネット及びクラウドとの連携機能開発案件が増加。
- 自動車販売店向けソリューションでは、新規顧客獲得や既存顧客からの保守、及び既存システムの機能改修案件等の受注が拡大。
- エネルギー業界向け分野では、遠隔監視モニタリングシステムを活用したO&Mサービス導入に注力。

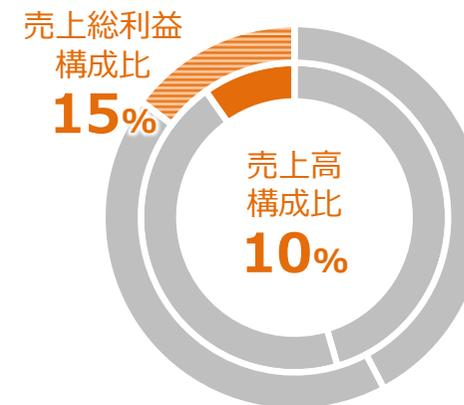
売上高 **938**百万円
売上総利益 **202**百万円



売上高 **923**百万円
売上総利益 **206**百万円



売上高 **201**百万円
売上総利益 **70**百万円



2. PCIグループの強み



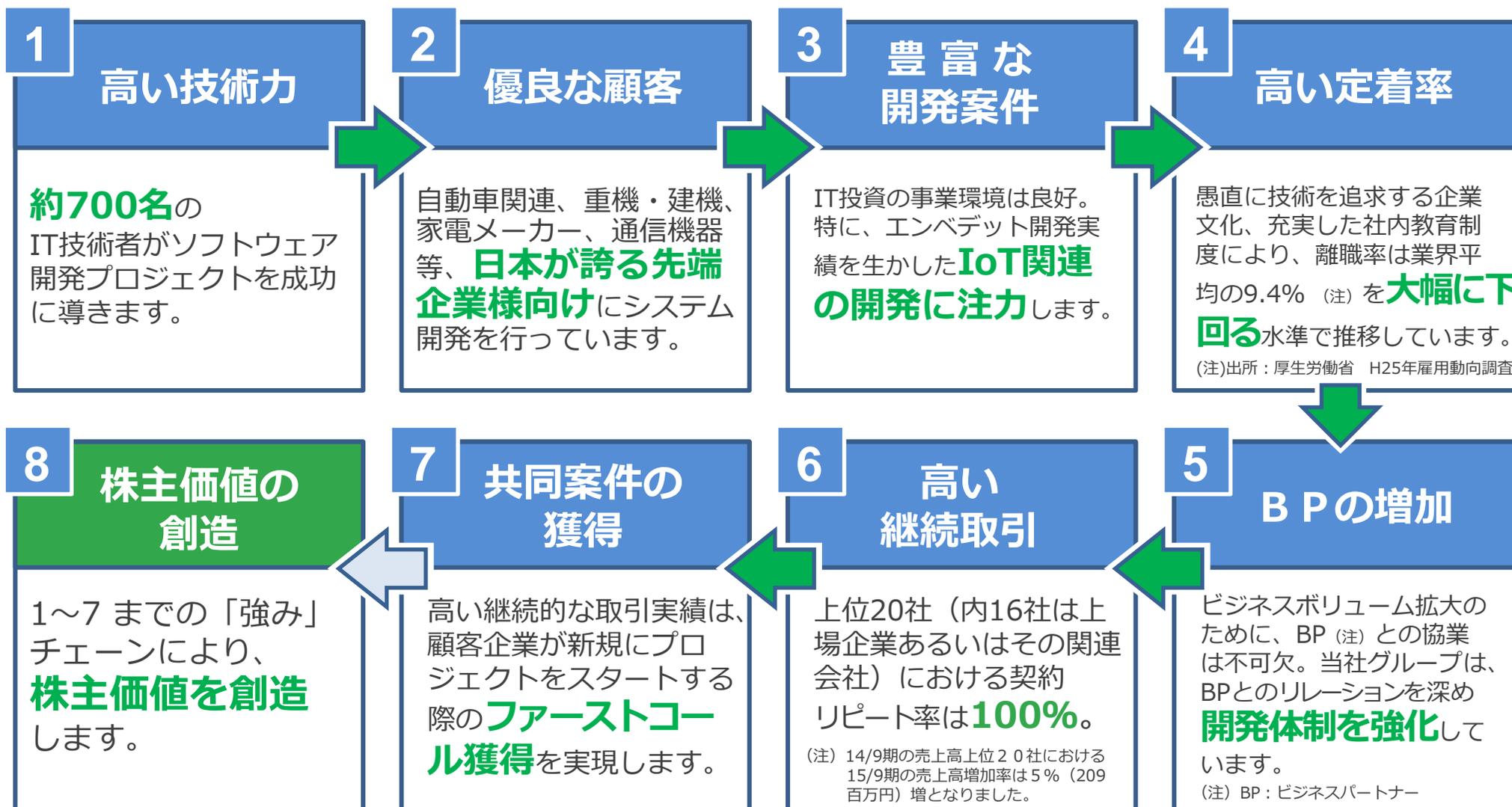
2016年9月期 PCIグループ – Motto –

『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』

2. PCIグループの強み ～ 主な【強み】

	【強み】の内容	【強み】となっている理由
優良な顧客	<p>日本が誇る各業界の先端大手企業様が当社グループのお客様</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車メーカー／建機メーカー ・家電メーカー／通信機器メーカー 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発実績を背景とした当社グループの技術力、対応力をご評価
高い定着率	<p>従業員のほとんどが正社員であり、2015年9月期の離職率は、4%程度と業界平均を大幅に下回って推移</p> <p>* 業界平均は9.4% (厚生労働省 H25年雇用動向調査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・風通しのよい企業風土 ・上司が部下に期待し、「育てる」「面倒をみる」企業文化 ・充実した社内教育制度 (OJT含む)
BPの増加 <small>*BP: ビジネスパートナー技術者</small>	<p>2013年9月期末 : 約20名</p> <p>2014年9月期末 : 90名</p> <p>2015年9月期末 : 172名</p> <p>2016年9月期2月 : 200名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当社グループが受託する案件内容をご評価 ・当社グループのBP企業様に対する姿勢をご評価
高い継続取引	<p>取引先上位20社における契約リピート率は100%</p> <p>さらに、2014年9月期に比べ2015年9月期は売上増加率5%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当社グループエンジニアの技術力 (品質面、納期面、取組姿勢等) をご評価 ・上場により企業としての信用度が向上

2. PCIグループの強み ～ 株主価値創造プロセス（強みのチェーン）



（注）各データは、2015年9月期末時点のもの

2. PCIグループの強み ～ 株主価値創造プロセスを支えるプロジェクト管理体制



- ・ 開発部門に工程管理専門の**経験豊富な管理職を配置**し不採算プロジェクトを極小化
- ・ 2015年9月期の不採算プロジェクト案件は1件のみ（戦略的先行投資案件を除く）
- ・ 徹底した開発工程管理で顧客からの信頼を獲得、売上高上位20社の契約リピート率は100%を達成

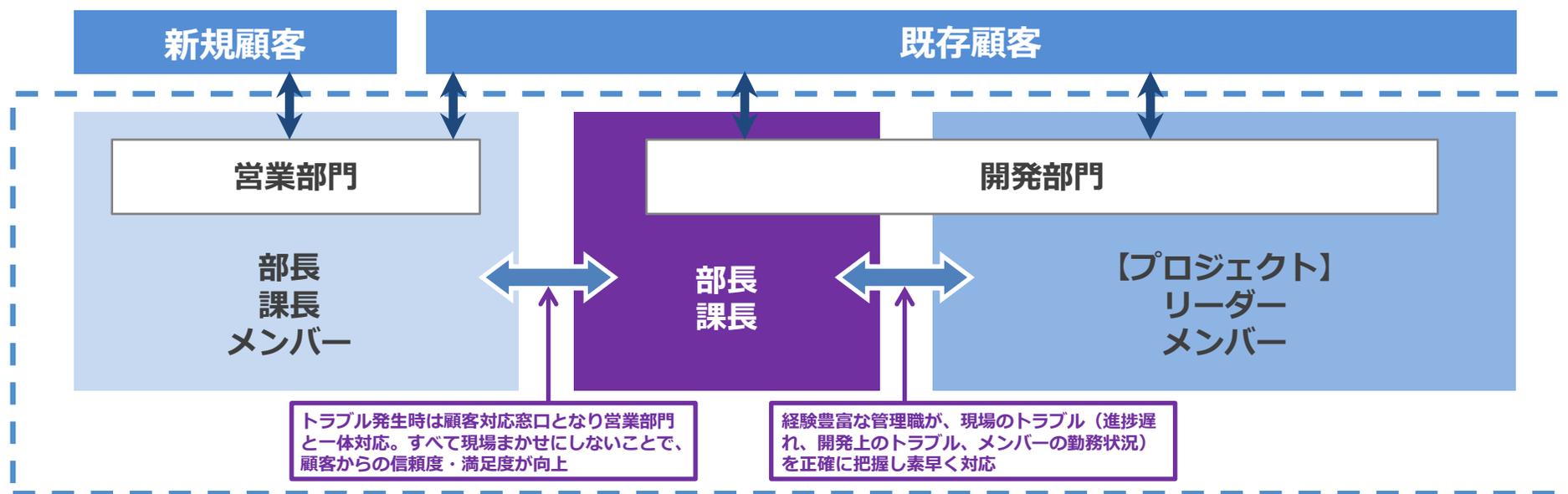
組織の特徴

営業部門

- ・ 新規顧客開拓、既存顧客のプロジェクト予算関連業務に専念

開発部門

- ・ **部長、課長：プロジェクトメンバーの進捗管理、顧客対応、労務管理を担当**
- ・ プロジェクトリーダー、メンバー：現場作業に専念



3. PCIグループの成長性

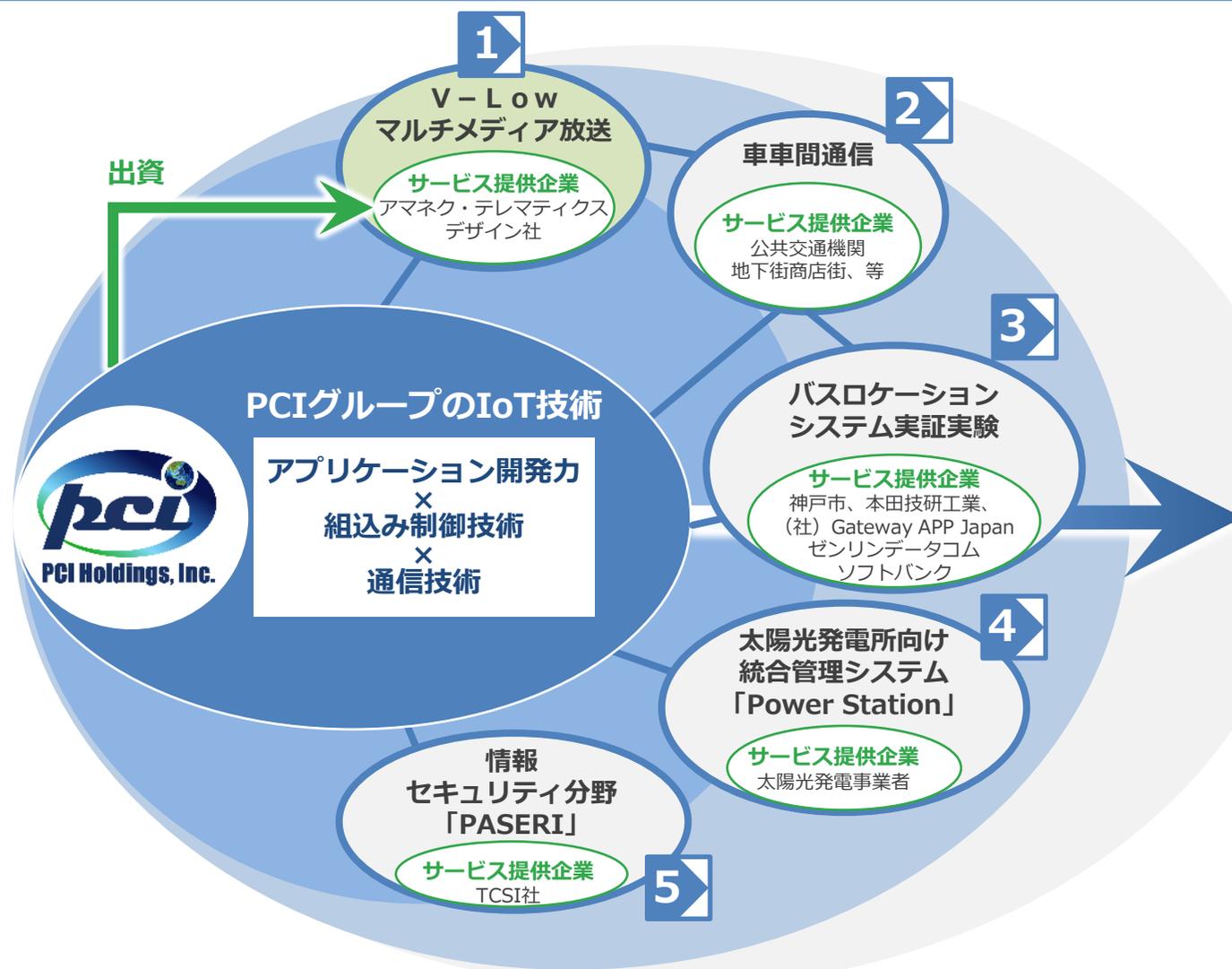


2016年9月期 PCIグループ – Motto –

『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』

3. PCIグループの成長性 ～ 新たなビジネス領域への挑戦

各種研究開発、エンベデッドシステム開発の豊富な実績で培ったIoT技術を応用し、新ビジネスサービスを提供する他業種企業と協業しWin-Winの関係を構築。安心・安全・豊かな社会の実現に向け、新たなサービス領域へ積極的に挑戦します。



「安心・安全・
豊かな社会」
の実現

当社グループの
確かな「技術力」
が支援します！

1▶ V-Lowマルチメディア放送



3. PCIグループの成長性 ～ V-Lowマルチメディア放送

V-Low マルチメディア放送とは

V-Lowマルチメディア放送は、V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態です。

平成28年3月1日より、福岡・東京・大阪を皮切りに放送サービスが始まります

V-Lowマルチメディア放送 の特色

- ① 移動しながら情報が入手できるという携帯性・移動性
- ② 輻輳なく不特定多数に対し同時に情報提供可能な一斉同報
- ③ 放送地域を分割し、各エリアでのみ受信できるエリア放送も可能
- ④ 音声・映像・データなど様々な情報を組み合わせて提供

他メディアとの違い

	インターネット	マルチメディア放送
送受信	混雑時等に利用できない可能性も	輻輳(パケ詰まり)なし
配信	プル型配信 必要な情報だけを取得	強制プッシュ配信も可能

(出所) エフエム東京HP等より作成

	従来の放送 テレビ・ラジオ・ 県域放送	V-Low マルチメディア放送
放送エリア	県域放送	地方ブロック
ハード/ソフト	一致	分離
端末	テレビ受信機 ラジオ受信機	車載器・サイネージ・ 携帯電話(スマホ)
ビジネスモデル (収益源)	広告	多彩なビジネスモデル

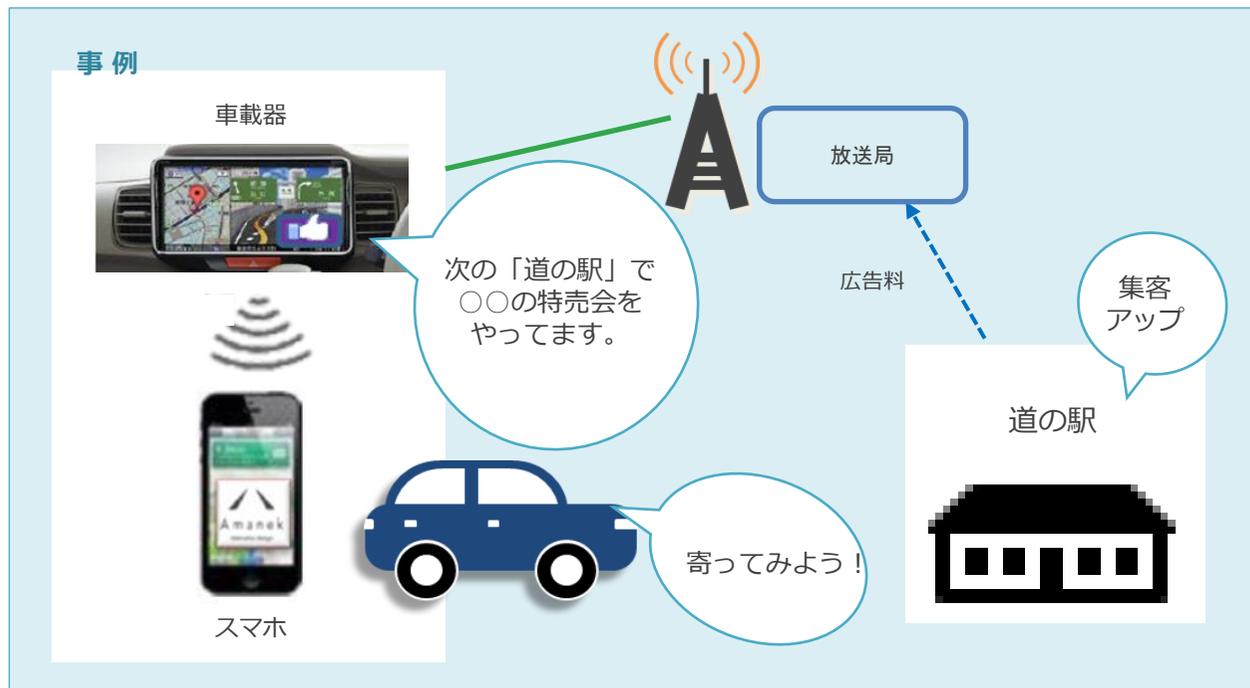
当社の 取組み

- ・ 車載器受信 共通プラットフォームの開発実施
- ・ V-Lowマルチメディア放送のコンテンツを提供する **アマネク・テレマティクスデザイン社へ出資**

3. PCIグループの成長性 ～ V-Lowマルチメディア放送の概要

V-Lowマルチメディア放送による新しいサービス

自動車の位置情報をもとに「道の駅」や「SA/PA」、商業施設等の周辺店舗の情報やクーポンをカーナビへ表示、専用アプリでスマホにクーポンデータを送信し購買機会を提供する。



新たなサービスのイメージ図

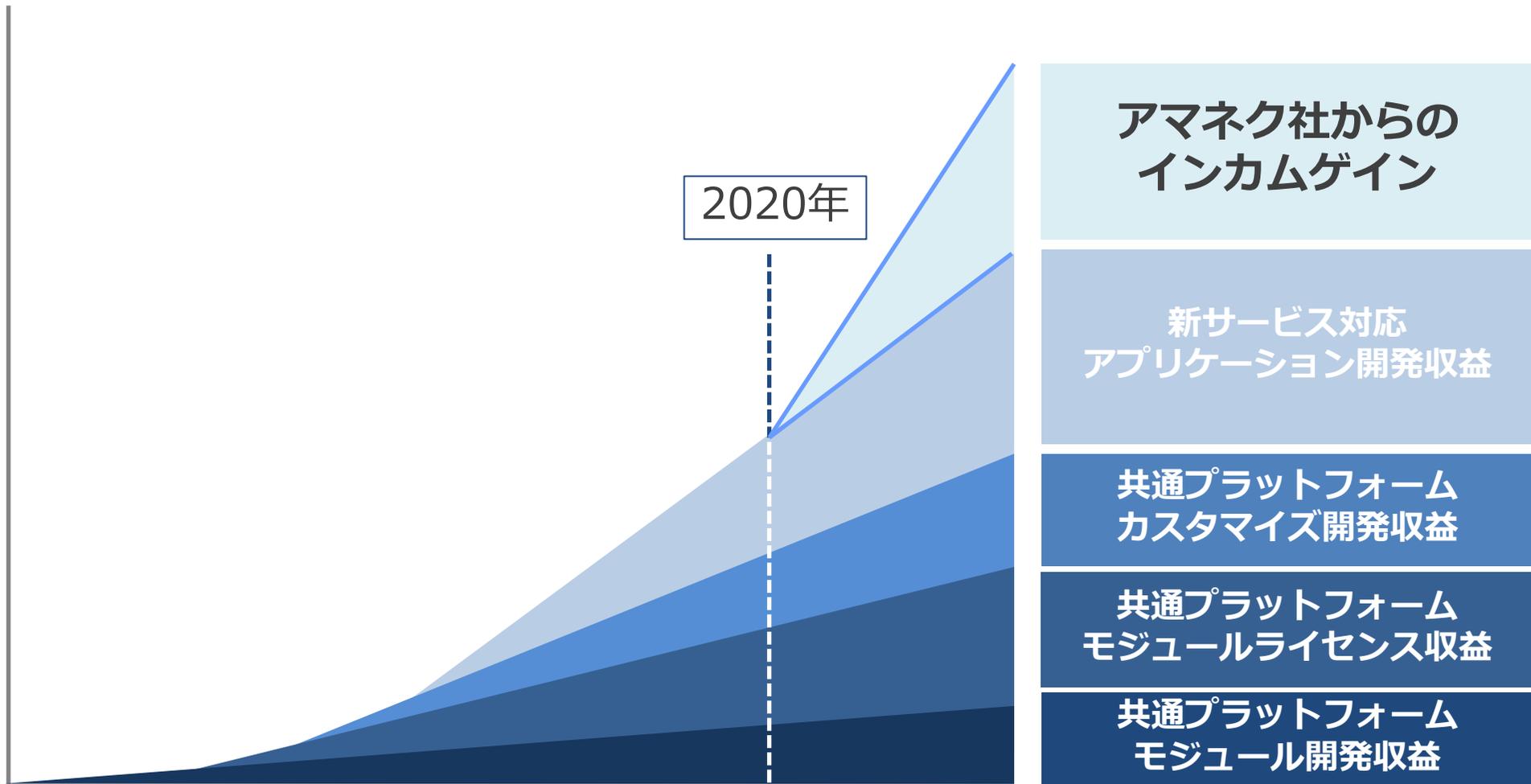
- 自動車の運転中に、**運転先の15分後の気象情報**を伝える
- **ドライブ中に近隣**の旬のドライブ情報や夕日がきれいに見えるエリアなどの情報を取得
- 業務車両向け**専用情報の提供**
- ロードサイドの電子看板向け動画広告 (**デジタルサイネージ**)

3. PCIグループの成長性 ～ 収益モデル

1



PCIグループにおける収益モデル



2 V2X (Vehicle to X) : 車車間通信



3. PCIグループの成長性 ~ V2X (Vehicle to X) : 車車間通信



V2Xとは、自動車 (Vehicle) と他の様々な機器やもの (X) とを通信でつなげること。当社はV2Xを実用化する為の**V2Xユニットのソフトウェア開発**と一般社団法人ゲートウェイ・アップ・ジャパン (会員: 34企業・団体4自治体 2016年2月時点) を通じてV2Xを活用した新サービスをお客様へ提案しています。

一歩先の情報取得で 安心・安全な社会を実現

1.

運転情報の取得

- ・ 渋滞や道路工事情報の共有
- ・ 前方車の急ブレーキを受信、瞬時に分析
- ・ 渋滞発生を後続車に連絡
- ・ 災害時の重要情報伝達

2.

スマホとの連動

- ・ 歩行者が横断したい時にメッセージ発信
- ・ 後続のバイク等に前方注意情報を発信

3.

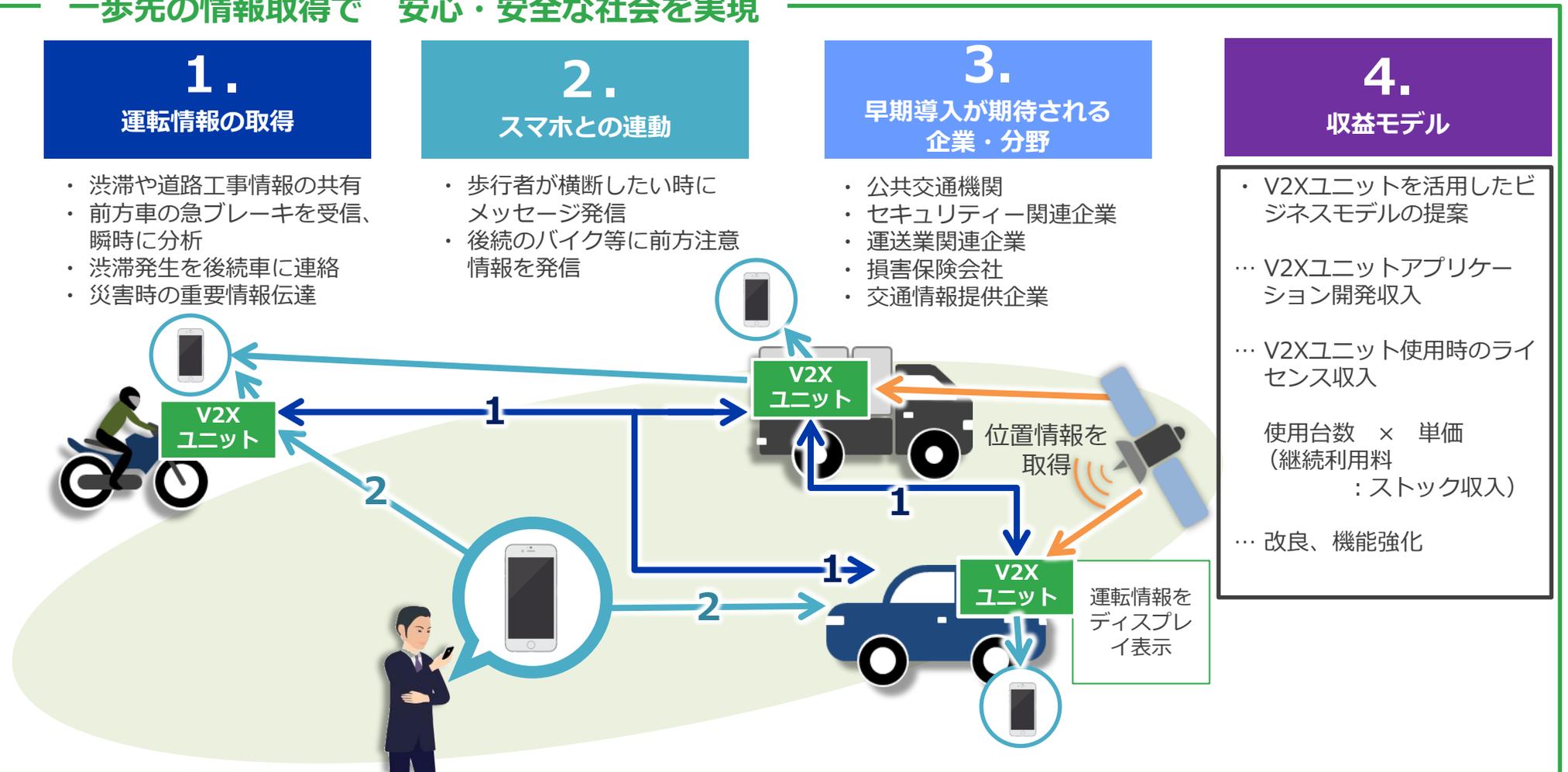
早期導入が期待される企業・分野

- ・ 公共交通機関
- ・ セキュリティー関連企業
- ・ 運送業関連企業
- ・ 損害保険会社
- ・ 交通情報提供企業

4.

収益モデル

- ・ V2Xユニットを活用したビジネスモデルの提案
- … V2Xユニットアプリケーション開発収入
- … V2Xユニット使用時のライセンス収入
- 使用台数 × 単価 (継続利用料 : ストック収入)
- … 改良、機能強化



3 神戸市バスを情報通信基地とする実証実験



2016年2月23日 「V2Xユニット」を搭載した「市バスを情報通信基地とする実証実験」が開始

☆12月22日に神戸市より発表

- ・PCIソリューションズが実証事業主体会社の1社として参画する、「市バスを情報通信基地とする実証実験」について2015年12月22日に神戸市が発表。
- ・2016年2月23日より、**実証実験開始**。

☆PCIソリューションズが「実証事業主体」として参画

- ・PCIソリューションズが、「V2Xユニット」を活用したソフトウェア開発に携わる「実証事業主体」として参画
- ・「V2Xユニット」を市バスに搭載、バスの位置情報を収集し、ユーザー画面で利用者へ発信する。
- ・リアルタイムの市バス運行情報を**オープンデータ化**する。**(政令市初)**

☆今後の展開

- ・実験結果を踏まえ、平成28年度にバスロケーションシステムの**市バス全路線への本格導入を検討**
 - ☆実験の第二段階として、利用者・市民への更なる情報発信のため、**デジタルサイネージ**や車外カメラの導入を検討
 - ☆アプリケーションの開発イベントを開催
- ・将来の展開として、**大規模災害時における情報伝達**のあり方を検証

記者資料提供(平成27年12月22日)
 企画調整局情報化推進部 松崎・中川
 TEL:078-322-6462(内線2843)FAX:078-322-6199
 交通局自動車部市バス運輸サービス課 大岩根・田中
 TEL:078-322-5944(内線6061)FAX:078-322-6186

市バスを情報通信基地とする実証実験

～オープンデータによる新たな市民サービスの展開に向けて～

1. 趣旨

情報通信基地としての市バスの活用に関する実証実験の第一弾として、バスロケーションシステム実証実験を実施します。あわせて実証実験で得られたリアルタイムの市バス運行情報をオープンデータ化し、市民・企業・行政が一体となり、アプリ開発への取り組みなどを行います。
 今後、民間事業者の技術開発の進展を踏まえて、大規模災害時における市バスによる緊急情報の伝達などに展開していく予定です。

2. バスロケーションシステム実証実験

- (1)実施期間:平成28年2月～4月末(予定)
- (2)実施路線:市バス66系統(貿易センター～しあわせの村)で実施
(計28台の車両へ機器を設置)
- (3)実験内容:・一般社団法人Gateway APP Japanより提供された車載器「V2Xユニット」を市バスに搭載、バスの位置情報を収集し、ユーザー画面(下部にイメージ図掲載)で利用者へ発信する。
 ・リアルタイムの市バス運行情報をオープンデータ化する。(政令市初)

3. 今後の展開イメージ



- ・実験結果を踏まえ、平成28年度にバスロケーションシステムの市バス全路線への本格導入を検討
 ＊実験の第二段階として、利用者・市民への更なる情報発信のため、デジタルサイネージや車外カメラの導入を検討
 ＊アプリケーションの開発イベントを開催
- ・将来の展開として、大規模災害時における情報伝達のあり方の検証

※画像はイメージです
 (出所) 神戸市HP

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2015/12/20151222040501.html>

4. 実証事業主体

- ・神戸市
- ・一般社団法人Gateway APP Japan
- ・本田技研工業株式会社
- ・株式会社ゼンリンデータコム
- ・**PCIソリューションズ株式会社**
- ・ソフトバンク株式会社

4. 実証事業主体

- ・神戸市
- ・一般社団法人Gateway APP Japan
- ・本田技研工業株式会社
- ・株式会社ゼンリンデータコム
- ・PCIソリューションズ株式会社
- ・ソフトバンク株式会社

5. その他

参考1: 一般社団法人Gateway APP Japanについて
 災害に関わる情報を訪日外国人、在住外国人、地域住民(日本人)に対し伝達するための仕組みを、情報通信の手段を用いて段階的に構築し、提供する情報を正確に伝達するために多言語翻訳の仕組みを構築し、その仕組みと手段を全国で利用できるよう普及促進する事を目的とし事業を行う一般社団法人。

参考2: V2Xユニット詳細
 Vehicle to Xユニットの略称。車と車以外のあらゆるものを結ぶという観点から開発されたWi-Fiフィルタ。携帯電話網(データ通信)・通常のWi-Fi・V2Xユニット間を接続するWi-Fi機能の3つの異なる通信手段を搭載。平時においては、ドライバー・同乗者へ各種の情報があるいは車同士で情報のやり取りを行い、災害時にはデータを蓄積・伝達するネットワークの基地局としての利用が期待されている。

1▶ 2▶ 総務省 研究会への参画



「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」（総務省 総合通信基盤局）へ
P C Iソリューションズが構成員として参画しております。

☆ 1月20日に総務省より発表

総務省は、**大規模災害の発生時等**に、**自動車に搭載された通信システム**やスマートフォンの無線LAN機能等を利用してアドホックに**ネットワークを構築**し、活用する際の技術的課題について検討を行うため、**「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」**を開催。

☆ 主な検討事項

- (1) 災害時に求められる**通信サービスのイメージ・ユースケースと、その実現手段**
 - (2) アドホックネットワークにおける**情報伝送・制御機能への要求条件**
 - (3) アドホックネットワーク構築のための**技術的課題の整理と解決の方向性** 等
- ※検討に当たり、無線方式については中立的に取り扱う

☆ P C Iソリューションズが構成員として参画

本田技研工業(株)、東京大学生産技術研究所、(株)トヨタ I T開発センター、東京工業大学大学院、(株)K D D I 研究所、沖電気工業(株)、(株)N T T ドコモ、ソフトバンク(株)、情報通信研究機構、日本電気(株)、**P C Iソリューションズ(株)**

報道資料



平成28年1月20日

「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」の開催

総務省は、大規模災害の発生時等に、自動車に搭載された通信システムやスマートフォンの無線LAN機能等を利用してアドホックにネットワークを構築し、活用する際の技術的課題について検討を行うため、「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」を開催します。

1 目的

情報通信ネットワークは、災害時において被災者の安否確認や被災地域での消防活動の緊急性及び必要性の把握、災害対応を実施する国や自治体といった行政機関間の連絡に活用されるなど、国民の生命・財産の安全や国家機能の維持のために重要な役割を果たしています。しかし、東日本大震災の発生時、停電や設備損壊、アクセス集中等により、既存の情報通信ネットワークに大規模な通信途絶及びふくそうが発生したように、災害時において情報通信ネットワークの確保自体が困難となる状況が発生しています。

このため、大規模災害等の発生により既存の情報通信ネットワークがつながりにくい状況等となった場合においても、被災者や警察・消防等の緊急機関、国や自治体といった行政機関等が災害対応等に活用可能な情報通信ネットワークを確保できるようにすることが喫緊の課題となっています。

他方、情報通信ネットワークは、平時においても国民生活や社会経済活動に欠くことのできない社会インフラとなっています。特に近年、社会のIoT(Internet of Things)化が急速に進展し、自動車分野においては、通信システムの搭載により情報通信ネットワークへの接続が可能となったコネクテッドカーの利用が拡大しています。また、無線LAN機能を搭載したスマートフォンが本格的に普及したことにより、利用者は様々なサービスを受けることが可能となっています。

以上のような状況を踏まえ、大規模災害の発生等により、既存の情報通信ネットワークが利用しづらい状況等となった場合に、自動車に搭載された通信システムやスマートフォンの無線LAN機能等を利用してアドホックにネットワークを構築し、被災者や警察・消防等の緊急機関、国や自治体といった行政機関等が災害対応等に活用できるようにするため、必要な技術的課題の検討を実施します。

2 主な検討事項

- (1) 災害時に求められる通信サービスのイメージ・ユースケースと、その実現手段
 - (2) アドホックネットワークにおける情報伝送・制御機能への要求条件
 - (3) アドホックネットワーク構築のための技術的課題の整理と解決の方向性 等
- ※検討に当たり、無線方式については中立的に取り扱います。

3 構成員

別紙のとおりです。

4 スケジュール

平成28年1月から開催し、同年7月を目途に一定の取りまとめを行う予定です。

連絡先

総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部
電気通信技術システム課
担当：秋浦課長補佐、河合係長、佐々木官
電話：03-5253-5858
FAX：03-5253-5863
E-mail:kikaku_tyousei_atmark_ml.soumu.go.jp
(迷惑メール防止のため、メールアドレスの一部を空けています。「_atmark_」を「@」に置き換えてください。)

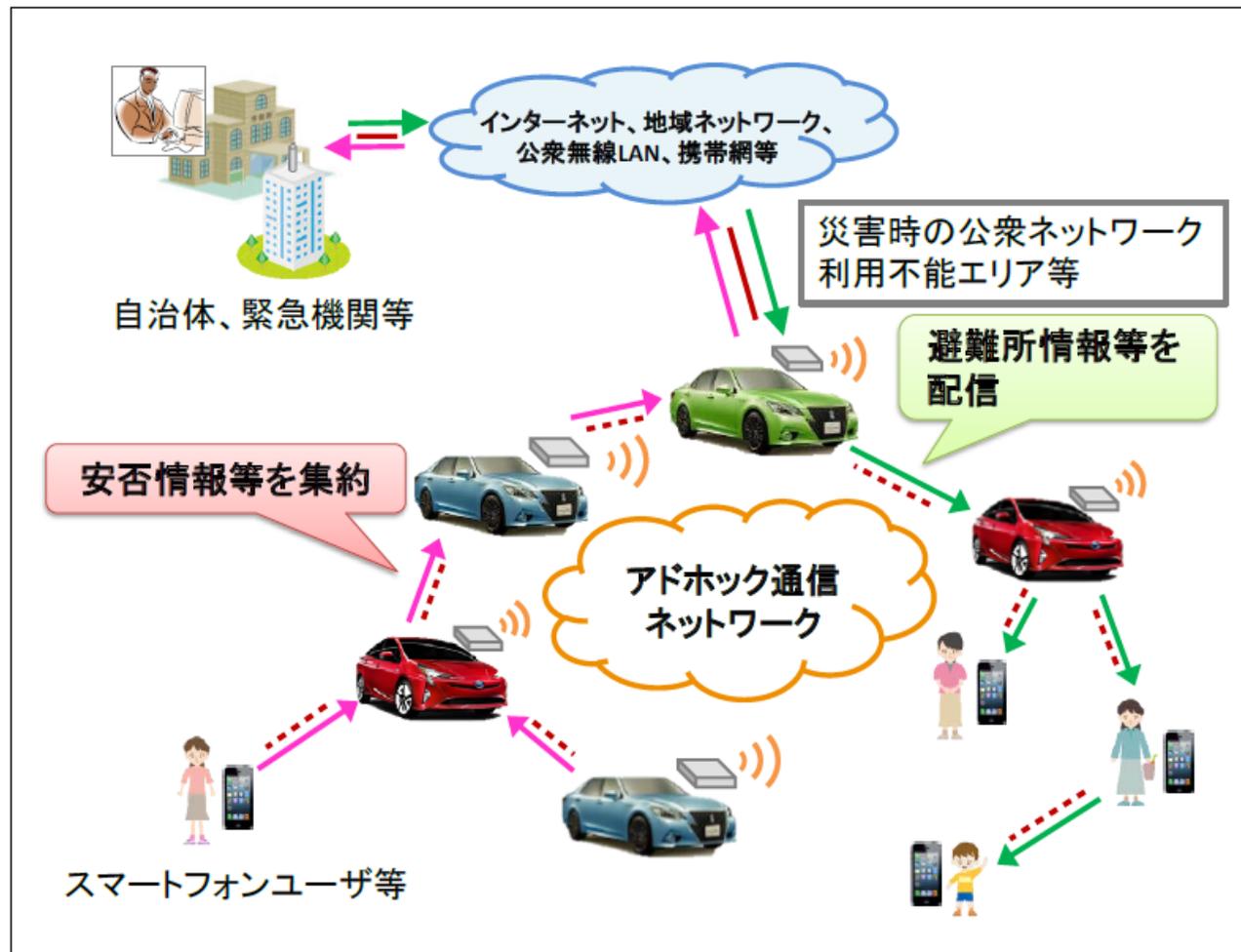
別紙

非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会 構成員一覧

(五十音順、敬称略)

大石 康夫	本田技研工業 (株) 四輪事業本部 事業企画統括部 グローバルテレマティクス部 サービス研究開発室 TC/技師
大口 敬	東京大学 生産技術研究所 教授
大西 亮吉	(株) トヨタ IT 開発センター 研究部 シニアリサーチャー
清宮 幸夫	PCI ソリューションズ (株) 執行役員 研究開発事業部 事業部長
高田 潤一 (主査)	東京工業大学大学院 理工学研究科 教授
田中 英明	(株) KDDI 研究所 執行役員 研究プロモーション部門担当
浜口 雅春	沖電気工業 (株) 社会システム事業本部 交通・防災システム事業部 無線技術研究開発部 部長
堀口 賞一	(株) NTT ドコモ R&D イノベーション本部 サービスイノベーション部 担当課長
松本 善徳	ソフトバンク (株) プロダクト本部 法人プロダクト企画部 プロダクト企画3課 課長
三浦 龍	(国研) 情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク研究所 ディベンダブルワイヤレス研究室長
渡邊 敏博	日本電気 (株) システムデバイス事業部 技術部長

非常時におけるアドホックネットワークの構築・活用のイメージ



(アドホックネットワークの構築)

災害時、公衆ネットワークが利用できなくなった地域等において、車載通信機器やスマートフォン等によりアドホックに通信ネットワークを構築

(アドホックネットワークの活用)

構築したアドホックネットワークを通じて、自治体等からの災害関連情報(災害発生情報、避難情報等)を被災者に配信

構築したアドホックネットワークを通じて、被災者の安否情報等を自治体等に集約

(出所) 総務省HP http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/adhocnw/02kiban05_03000226.html

4 再生可能エネルギー



3. PCIグループの成長性 ～ 再生可能エネルギー：Power Station 4

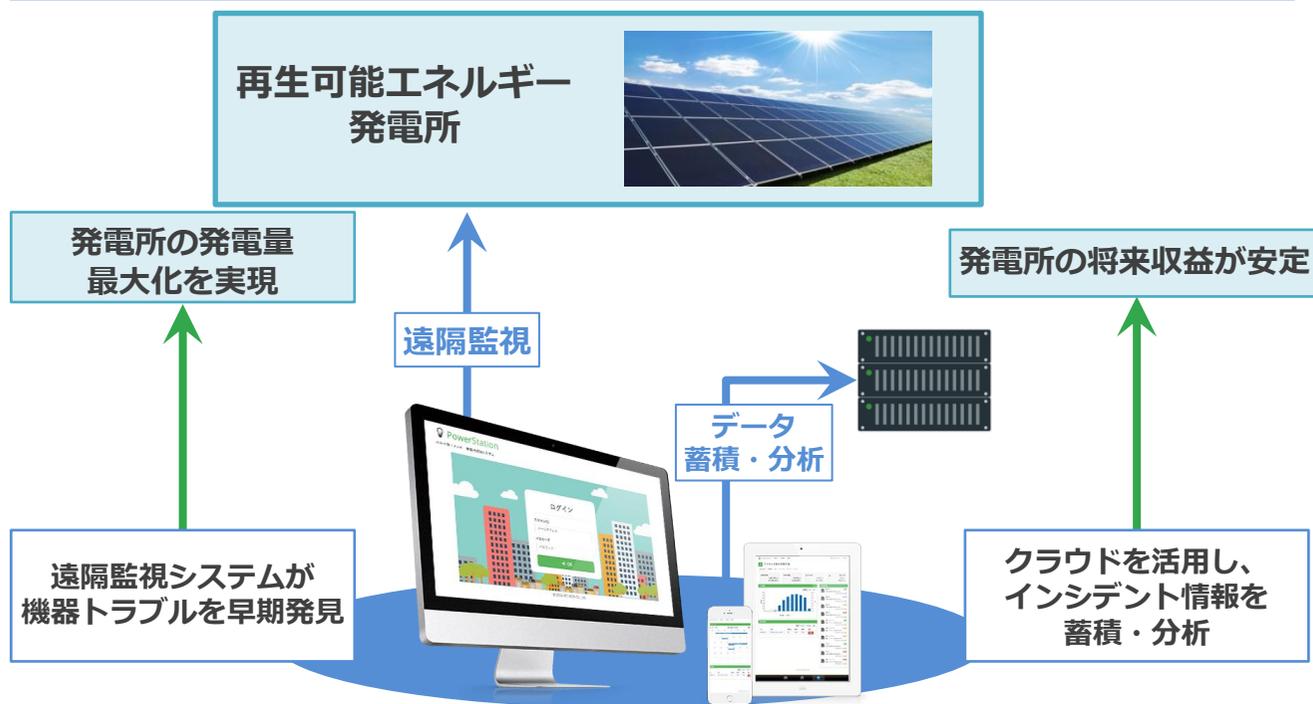


Power Stationは、再生可能エネルギー発電所の運用・維持管理業務（O & M業務）を支える統合管理システムです。当社のIoT技術を活用し入手したさまざまな情報を収集・分析することにより、機器トラブルを早期発見し、発電量の最大化を実現します。更には20年にわたる長期運用期間中のインシデント情報を蓄積・分析・対応することで、収益の安定化にも寄与します。

当社の強み・事業の特徴

- 当社は発電所の開発段階から関与しており、発電所の特徴を反映した分析が可能
- 大手コンサルファームと開発・発電事業者と当社（IT分野）の3社一体での関係を強化しており、開発プロジェクトのパイプラインが豊富
- 再生可能エネルギー発電所は長期運転が前提であり、一度受注すると当社の長期安定収入となる

Power Stationを用いた再生可能エネルギー発電所運営の仕組み



主な機能

- スtring単位の発電状況管理
- 時間・日・月別の発電状況管理
- 顕在化した故障の検出
- ビッグデータ分析による潜在故障の推測
- インシデント管理

受注見通し

- 2015年9月 2拠点（実績）
- 2016年9月 4拠点（見通し）
- ～2018年各期 3～5拠点（見通し）

5 情報セキュリティ分野



2015年12月9日

株式会社TCSI との協業ならびに秘密分散ソリューション取り扱い開始

PCIソリューションズ株式会社が、株式会社TCSI（東京都渋谷区）とセキュリティソリューション分野における協業を開始いたしました。TCSI社は、利便性や生産性を損なわないセキュリティソリューションを強みとしており、秘密分散ソリューション「PASERI（パセリ）」（以下、PASERI）を開発しております。

TCSI社と開発、販売面で協業することにより、当社ソリューションの選択肢の1つとしてPASERIの取り扱いを開始。当社がこれまで培ってきた技術を、セキュリティソリューション分野においても役立てることを目的としております。



平成27年12月9日

各位

PCIソリューションズ株式会社
代表取締役社長 天野豊美

株式会社TCSI との協業ならびに秘密分散ソリューション取り扱いに関するお知らせ

当社は、このほど株式会社TCSI（代表取締役社長 田口善一、東京都渋谷区/以下、TCSI社）とセキュリティソリューション分野での協業を開始いたしましたので、お知らせいたします。

TCSI社は、利便性や生産性を損なわないセキュリティソリューションを強みとしており、秘密分散ソリューション「PASERI（パセリ）」（以下、PASERI）を開発しております。

当社ではTCSI社と開発、販売面で協業することにより、当社ソリューションの選択肢の1つとしてPASERIの取り扱いを開始いたします。当社がこれまで培ってきた技術をTCSI社のセキュリティ技術に組み合わせることでシナジー効果を発揮させ、セキュリティソリューション分野においても役立てることを目的としております。

の1つとしてPASERIの取り扱いを開始いたします。

TCSI社のセキュリティ技術に組み合わせることでシナジー効果を発揮させ、セキュリティソリューション分野においても役立てることを目的としております。

※PASERIとは

ファイア・ウォールやアンチ・ウィルスだけでは防ぐことが難しい標的型攻撃に対して、「情報は盗まれるもの」という前提にたったセキュリティソリューションです。従来の共通鍵やPKIに代表される公開鍵を利用する暗号化では、鍵の紛失や解読による情報漏えいを防げないという欠点がありますが、PASERIは、情報を意味のない状態に変換、分散し、万が一、分割片の1つが盗まれても読み取り不可能な状態にできます。

この技術をPCに応用した「PASERI for PC」は、一片をPCのハードディスクに、一片をUSBメモリーやスマートデバイスなどの外部記憶装置、パブリッククラウド等に保管します。万が一PCや外部デバイス等に格納されている分割片を盗まれても一方だけではデータの復元はできません。「PASERI for PC」は社外への情報の持ち出し対策やマイナンバーの安全管理対策に期待が高まっているソリューションです。

なお、TCSI社の詳細はこちら (<http://www.tcsi.jp/>) をご覧ください。

本件に関するお問合せ先

PCIソリューションズ株式会社 営業本部 新規事業推進部 e-Mail : pmo@pci-sol.com

(出所) PCIソリューションズ <http://www.pci-sol.com/doc/20151209/TCSI.pdf>

4. PCIグループの業績状況



2016年9月期 PCIグループ – Motto –

『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』

4. PCIグループの業績状況 ～ 直近業績および当期計画



(百万円)	2015年9月期				2016年9月期				前期増減
	1 Q (参考)	2 Q (参考)	下期 (実績)	通期 (実績)	1 Q (実績)	2 Q (見込)	下期 (計画)	通期 (計画)	
売上高	1,910	2,028	3,914	7,853	2,063	2,071	4,315	8,450	7.6%
売上原価	1,494	1,574	3,022	6,090	1,584	1,592	3,364	6,541	7.4%
売上総利益	415	454	892	1,762	479	478	951	1,909	8.3%
販管費	275	278	660	1,215	318	306	704	1,329	9.4%
営業利益	139	175	231	547	160	172	247	580	6.0%
営業外収益	6	2	2	11	2	0	4	6	-46.0%
営業外費用	0	1	11	13	1	2	3	6	-54.7%
経常利益	145	175	223	544	161	169	249	580	6.5%
税前利益	144	175	192	512	161	169	249	580	13.1%
法人税等	64	71	46	181	56	68	94	220	20.9%
当期純利益	80	104	145	330	104	100	155	360	8.8%

※2016年第1四半期は、ほぼ計画線で推移。

足元の業況、業績の進捗から判断し、上期・下期ともに計画に沿った着地を見込む。

4. PCIグループの業績状況 ～ 貸借対照表

(百万円)	2015年9月期				2016年9月期
	1 Q (参考)	2 Q (参考)	3 Q (実績)	4 Q (実績)	1 Q (実績)
流動資産	2,418	2,451	2,357	3,087	2,962
固定資産	330	323	330	198	310
資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273
流動負債	1,458	1,375	1,199	1,096	1,105
固定負債	61	65	70	74	77
負債合計	1,519	1,441	1,270	1,171	1,183
純資産合計	1,228	1,333	1,417	2,114	2,090
負債純資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273
自己資本比率	44.7%	48.0%	52.7%	64.3%	63.8%
ROE (通期)				19.7	16.2 (見込)

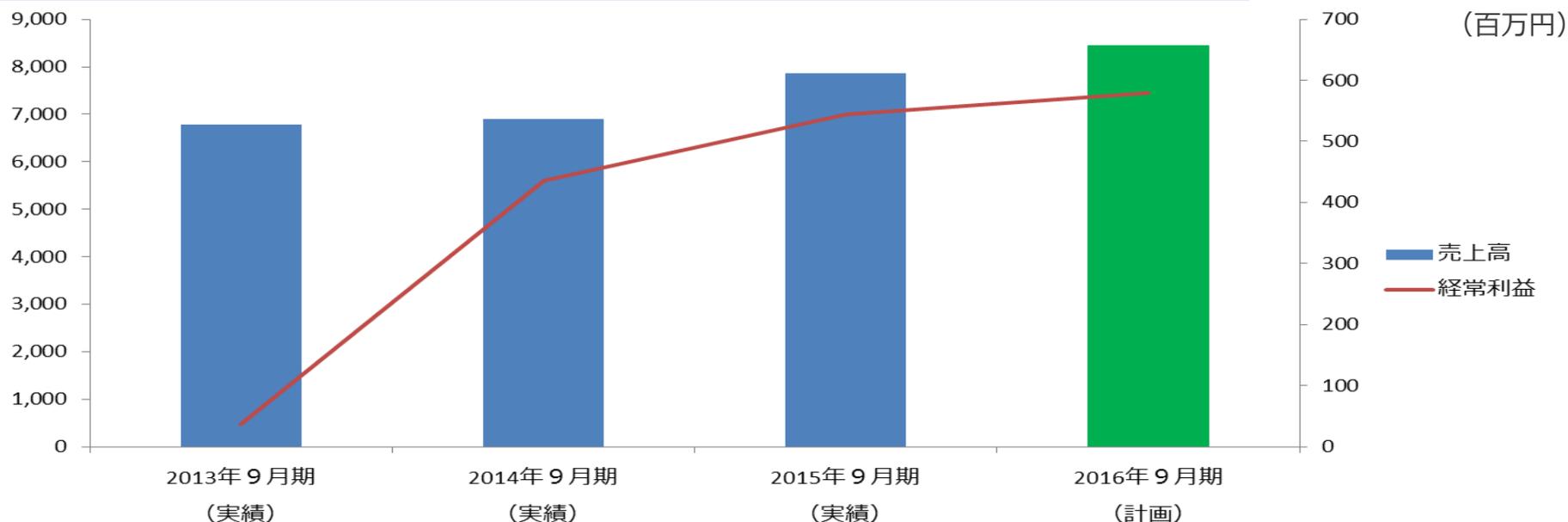
Tips!
投資有価証券
119百万円

Tips!
短期借入金
長期借入金
ともになし。

4. PCIグループの業績状況 ～ 過去3カ年の売上高・経常利益の推移



- ・ 2013年9月期以降、売上高・経常利益ともに堅調に推移
- ・ 2015年9月期は、売上高・経常利益ともに過去最高を記録
- ・ 2016年9月期（当期）は、売上高・経常利益ともに過去最高を計画。
第1四半期は、計画通りに進捗。



売上高	6,782	6,906	7,853	8,450
(前期比)	—	1.8%増	13.7%増	7.6%増
経常利益	36	436	544	580
(前期比)	—	1103.2%増	24.9%増	6.5%増
経常利益率	0.5%	6.3%	6.9%	6.9%

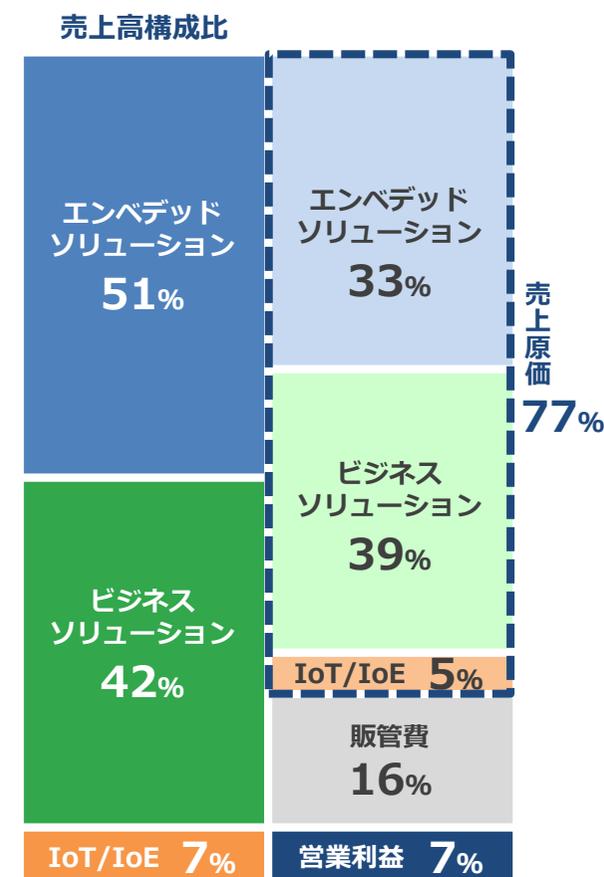
4. PCIグループの業績状況 ～ 2015年9月期 収益構造と中期見通し



事業別	売上高構成比/売上総利益構成比	ポイント
エンベデッド ソリューション事業	<p>売上高 構成比 51%</p> <p>売上総利益 構成比 51%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■中期売上高成長・収益性見通し <ul style="list-style-type: none"> ・自動車産業向けを中心に需要は堅調 ・売上高成長率：年平均3～5%程度 ・売上高総利益率：22～24%を維持 ■当社の強み <ul style="list-style-type: none"> ・顧客との関係深く参入障壁を構築 ・豊富な通信/組込制御系エンジニアと組織力 ■課題、特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・課題：高スキル プロパーエンジニアの継続的育成 ・特徴：景気変動による影響が小さい ■成長戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・既存取引先との関係強化（深耕、横展開）
ソリューション ビジネス	<p>売上高 構成比 42%</p> <p>売上総利益 構成比 40%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■中期売上高成長・収益性見通し <ul style="list-style-type: none"> ・企業のIT投資の堅調さ継続 ・売上高成長率：年平均3～7%程度 ・売上高総利益率：20～22%を維持 ■当社の強み <ul style="list-style-type: none"> ・特定業種に依存せず、幅広い業種での開発実績 ・豊富なオープンソースソフトウェア関連技術者 ■課題、特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・課題：エンジニアの確保と大規模一括受託案件に係るプロジェクト管理 ・特徴：景気変動による影響が大きい ■成長戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・BPとのリレーション強化による機会損失の削減 ・自社ソフトウェアプロダクトを持つ企業のM&Aも視野。
IoT/IoE ソリューション事業	<p>売上高 構成比 7%</p> <p>売上総利益 構成比 9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■中期売上高成長・収益性見通し <ul style="list-style-type: none"> ・従来の業種を超えたIoT/IoE市場の拡大 ・売上高成長率：年平均2桁成長（売上高構成比13～15%） ・売上高総利益率：20%台後半～30% ■当社の強み <ul style="list-style-type: none"> ・豊富なエンベデッドシステム開発実績によるスムーズな参入 ・開発実績による信頼性を背景とした他社との共同プロジェクト ■課題、特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・課題：IoT技術を活用したサービス展開 ・特徴：急成長であり競争が厳しくなる ■成長戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車業界向け V2X、V-Lowマルチメディア放送関連の推進 ・V2X技術、V-Lowマルチメディア放送関連の利用方法の拡大 ・エネルギー業界向け PowerStationを活用したO&Mの推進

中期ターゲット	
売上高成長率	5 ～ 10%
売上高総利益率	20 ～ 24%
営業利益率	6 ～ 8%

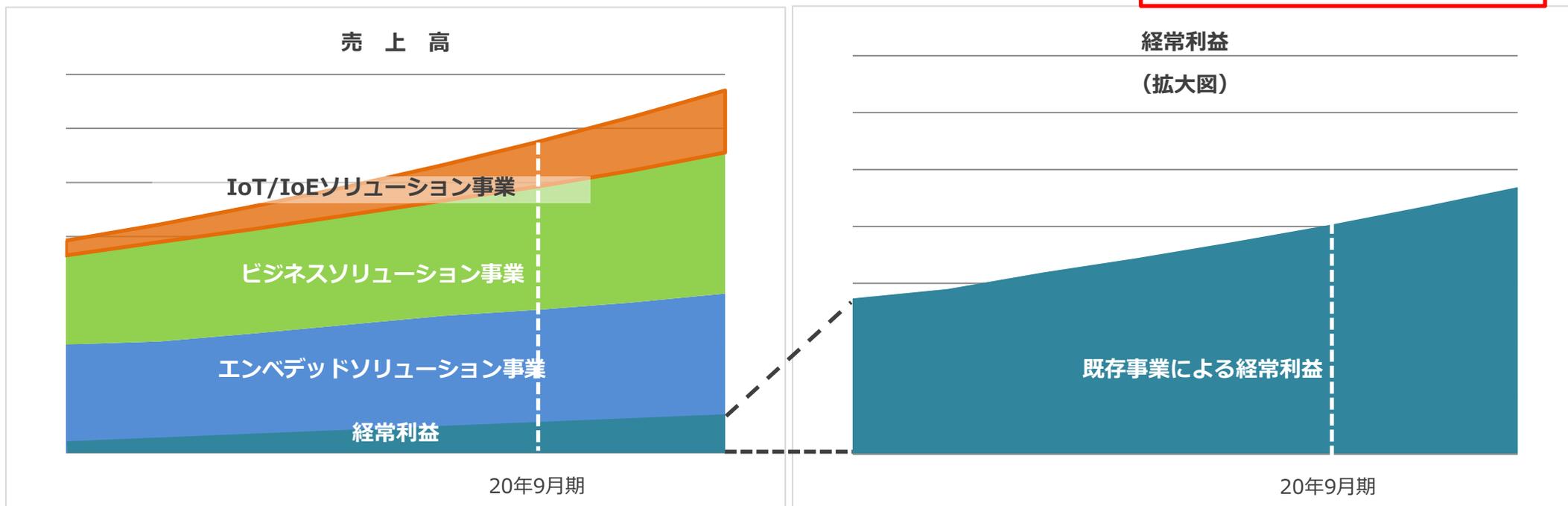
15/9期 実績



4. PCIグループの業績状況 ～ 2015年9月期 収益構造と中期見通し①



中期ターゲット	
売上高成長率	5 ～ 10%
売上高総利益率	20 ～ 24%
営業利益率	6 ～ 8%

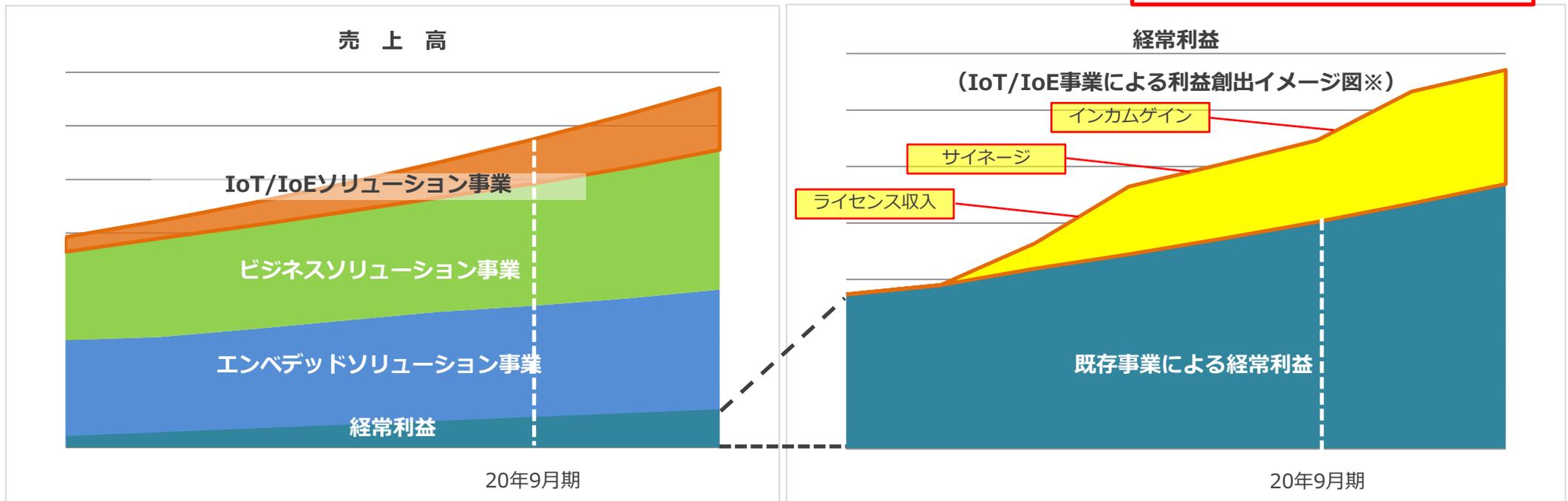


※上記グラフ中の売上高及び経常利益は、中期ターゲットにおける**既存事業のみの成長**をグラフ化したもので、**V2Xユニット、V-Lowマルチメディア放送等の新しい取り組みに係る収益予想は織り込んでおりません。**

4. PCIグループの業績状況 ～ 2015年9月期 収益構造と中期見通し②



中期ターゲット	
売上高成長率	5 ~ 10%
売上高総利益率	20 ~ 24%
営業利益率	6 ~ 8%



※IoT/IoE事業による利益創出イメージ図は、**現在織り込んでいないV2Xユニット、V-Lowマルチメディア放送等の新しい取り組みに係る収益を反映させた予想値をグラフ表示**しているものです。当該事業の今後の拡大規模や展開スピードにより大きく変動することが予想されるため、**当社計画値を表すものではありません。**

5. PCIグループの株主還元



2016年9月期 PCIグループ – Motto –

『 上場企業としての自覚を持ち、
お客様、ビジネスパートナー等と共存共栄を図り、
更なる飛躍を目指し、社会から信頼される企業となる 』

◇2016年3月31日を基準日として、1：2の株式分割を予定

投資単位当たりの金額を引き下げ、
株式数の増加により株式の流動性を高めることで、
当社株式により一層投資しやすい環境を整えるため

◇2016年5月より、

当社グループ役員持株会による当社株式購入開始

当社グループ役員自らが当社株式を継続的かつ安定的に購入し、
保有することにより、株主の皆様と株式価値をより一層共有するため

5. PCIグループの株主還元 ～ 配当方針



株主還元方針

経営基盤の長期安定化に向けた財務体質の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保を確保しつつ、**安定した配当を維持継続し**、業績に裏付けられた**更なる配当水準の向上**を図ることで株主への利益還元を行うことを基本方針としております。

[上場後の連結配当性向の目安：30%～50%]

過去の配当実績

当社では、業績が安定してきた2013年9月期より上記基本方針に基づき配当を実施してまいりました。

	2013年9月期 (実績) (未上場時)	2014年9月期 (実績) (未上場時)	2015年9月期 (実績)	2016年9月期 (計画)
年間配当金	65円	70円	80円 (普通配：70円) (記念配：10円)	80円 (分割換算後：40円)
連結配当性向	19.4%	19.7%	34.0%	37.3%

※当社は、2015年3月23日付で1：100の株式分割を行っており、2013年9月期および2014年9月期は調整後の金額を表示しております。

私の思い

- ・お客様、ビジネスパートナー、従業員、その他ステークホルダーの皆様に恵まれて上場することができ、ようやく「スタートライン」に立たせていただいた。
- ・今後も引き続き、ステークホルダーの皆様とともに当社グループの「持続的な成長」と「中長期的な企業価値の向上」を図ってまいります。
- ・初心を忘れることなく、同じ価値観を共有できる「真に実力のある」会社と一緒に成長を図ります。
- ・誠実に、正しく、愚直に事業に取り組み、『安全・安心・豊かな社会』に当社グループの技術力が少しでも貢献できるよう努力してまいります。

事業のキーワード

エンベデッド（組込み系システム開発）

- ・自動車、家電製品等には様々なソフトウェアが組み込まれております。

V-Lowマルチメディア放送

- ・2016年3月1日より放送が始まります。

V2X（車車間通信）

- ・今後、様々な場面での活用が期待されております。

これらのキーワードを
目にしたら、耳にしたら



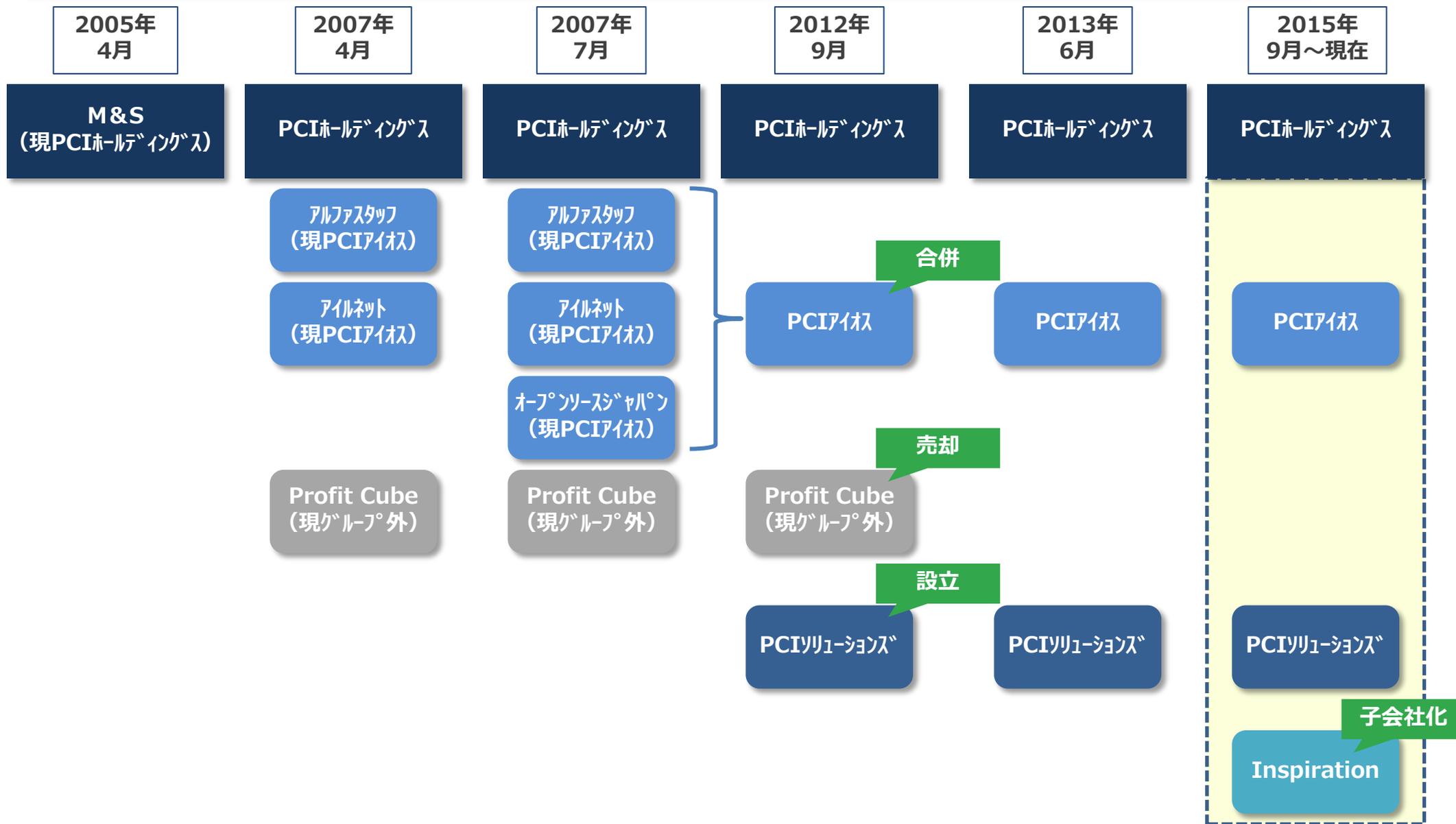
「P C I」

を思い出してください。

補足資料 会社概要



(1) 会社概要 - グループ沿革



(2) グループ企業の事業紹介

PCIソリューションズ

エンベデッド
ソリューション

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

当社グループの連結売上高の約90%を占めるソフトウェア開発事業会社。

参入障壁が高いといわれる自動車産業向け、通信端末、情報家電等の様々な電子機器を制御する組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発に強み。一般事業法人向けソフトウェア開発においては、幅広い分野でお客様の需要に応えている。

システム開発だけでなくIT人材の育成を目的に教育にも力を入れ、システムと人の両面から顧客に最適なソリューションを提供。

加えて、組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発で培った技術を基に、自動車産業関連のIoT/IoEソリューションへも展開している。

PCIアイオス

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

オープンソースソフトウェアを活用した、短期間且つ高品質な開発を得意とするソフトウェア開発事業会社。

オープンソースソフトウェアによるITシステム構築需要に応える他、業種特化した自社開発ソフトウェアパッケージを有し、その販売ならびに当該業種の業務知識を活用したコンサルテーションも実施。

オープンソースソフトウェアとクラウドのノウハウを活かした再生可能エネルギー関連データ収集IoTデバイスや収集したデータ分析を行うクラウド運用サービスまで一括して受託するビジネスを担う。

Inspiration

IoT/IoE
ソリューション

少数精鋭による高スキルエンジニア集団のソフトウェア開発事業会社。

自社で開発した開発フレームワークを活用した短期間開発が特色。

自動車販売店向けソフトウェア開発を得意としており、特にIoT/IoEソリューションとしてのWebサービスの構築・販売に強みを持つ。

自動車業界における豊富なサービス運用実績より生み出されたノウハウを基に、システム開発、Webデザイン、コンテンツ制作、ヘルプデスク業務をワンストップで提供している。

本資料のいかなる情報も、弊社株式購入や売却などを勧誘するものではありません。本資料に記載されている業績予想及び将来の予測等に関する記述は、資料作成時点での入手された情報に基づき弊社で判断した予想であり 潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いかねますのでご承知おき下さい。

お問い合わせ先

PCI ホールディングス株式会社 グループ戦略室

Phone 03-5633-7940

E-mail ir@pci-h.co.jp

